

Vascular Research Initiative Conference 2015参加報告

兵庫医科大学心臓血管外科

日本血管外科学会評議員・国際委員 山村光弘

Vascular Research Initiative Conference とは？

血管外科医なら海外で一度ぐらい発表したいと思うかもしれないが、実は米国血管外科学会 Society for Vascular Surgery (以下 SVS) 総会 6 月発表はなかなかの難関である (2012 年採用演題 195 題・採用率 43%)。よってポスター発表をねらうことになるが (12 部門 10 題で総数 120 題)、それでさえ日本からの発表は極めて少ない (2012 年 4 題・2014 年 5 題、詳細は日本血管外科学会ホームページの橋本先生の SVS2014 報告ご参照下さい)。ただ SVS では基礎研究部門発表が充実しており、前述の 12 部門のうち 2 部門が Research なので、毎年 20 題ずつ発表があることとなります。それでも Research 応募数が多いので、米国心臓病協会 American Heart Association 分科会である Arteriosclerosis Thrombosis Vascular Biology (以下 ATVB と略) 4 月同時開催で、米国血管外科医の基礎研究を中心とした研究会が 1 日の日程で開催されるようになりました。これが Vascular Research Initiative Conference (以下 VRIC と略) であります。

VRIC 演題申込方法

上記の歴史的背景のためか？少し変わっています。まず VRIC 演題単独募集はありません。11 月頃 ATVB ホームページ ATVB 演題募集から入力し、VRIC 演題同時応募とすることで完了します。SVS 総会演題応募には演者ないし共同演者が SVS 会員であるか SVS 会員の推薦が必要であるが、ATVB 演題審査料 40 ドル払えば SVS 会員推薦も必要ありません。採用審査は ATVB 査読委員と SVS 教育研究委員合議で決まり、VRIC 発表応募は SVS 総会 Research ポスター発表を妨げないのも特徴であります。

今年の状況

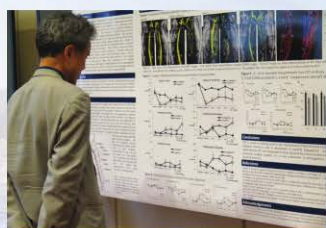
今年も ATVB2015 が米国 Hilton San Francisco で 5 月 7 から 9 日開催前日の 6 日同会場で開催されました (図にプログラム表紙示す)。会費 250 ドル前納した参加予約者は約 90 名であったが、対象は血管外科医が中心でしたがポスドクや留学生も参加できるので会場は 120 名ぐらいで立ち見もありました。演題内容は午前中に内膜肥厚 12 題、午後には研究助成 2 題・大動脈瘤 5 題・末梢血管 7 題、ポスター 9 題でありました。残念ながら自分も含め日本からの VRIC 発表なかったようですが、研究助成演題のあと座長をしていた Peter Lawrence SVS 会長とお話する機会があり、今年も 6 月 SVS 総会 Research ポスター採用されたお礼を述べると、その前に 5 月日本血管外科学会総会講演に招かれているから横浜楽しみにしているとのことでした。

以上 SVS の基礎研究部門である VRIC の背景・申込方法・今年の状況を報告したので、先生方のご参考にして頂ければ幸いです。

Vascular Research Initiatives Conference

Vascular Biology in Translation

May 6, 2015, San Francisco, CA



The 29th Annual Vascular Research Initiatives Conference (VRIC) is presented by the Society for Vascular Surgery (SVS). This program is supported by an educational grant from Medtronic and Gore.